

## 【授業科目】生理学

担当教員	開講年次	選択必修	単位数	時間数	授業形態	実務経験	オフィスアワー	教職員への授業公開
森 啓至	1年次前期	必修	1	15	講義	あり	卷末掲載	可
授業概要 (内容と進め方)	<p>生理学は正常な人体の機能を学ぶ学問であり、すべての医学系科目の基礎となる重要な学問である。様々な病気が発症するメカニズムや病態、それに対する様々な臨床検査を学ぶためには、まず正常な人体の機能について知っていなければならない。また、我々の身体はホメオスタシスを保つために、様々な調節系が働いている。この調節のしくみを理解することも、生理学での重要な項目である。本講義では、細胞の基本的な機能から、個体レベルでの人体機能について教授する。小テストおよび提出課題については、解説して返却する。</p> <p>*実務経験を持つ教員が授業を進める。</p>							
授業の位置づけ	<p>本学のディプロマポリシー①「臨床検査の専門性と責務を自覚するとともに、地域に住むあらゆる健康レベルの人々に専門的知識と技術に基づき臨床検査を実践できる。」の達成に寄与している。</p>							
到達目標 (履修者が到達すべき目標)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・細胞の基本的構造と機能について説明できる。</li> <li>・人体を構成する器官について列挙でき、その位置や構造や機能を説明できる。</li> <li>・生体機能を、分子、細胞、器官、個体の各レベルでのメカニズムを説明できる。</li> <li>・生命活動として、その生体機能の重要性を説明できる。</li> </ul>							
時間外学習に必要な学修内容および学習上の助言	<p>教科書や講義に用いた配付資料等を復習し、要点をノートにまとめること。受講にあたり 30 分程度の予習・30 分程度の復習を行い積極的に取り組むこと。</p> <p>※上記時間については、指定された学習課題に要する標準的な時間を記載してあります。日々の自学自習全体としては、各授業に応じた時間（2単位15回科目の場合：予習+復習4時間/1回）（1単位15回科目の場合：予習+復習1時間/1回）（1単位8回科目の場合：予習+復習4時間/1回）を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。</p>							
授業計画	<p>第1回 生理学の基礎：細胞の構造と機能、細胞内外での物質交換</p> <p>第2回 興奮性細胞の脱分極と再分極</p> <p>第3回 神経系の基本とシナプス伝達</p> <p>第4回 中枢神経と末梢神経</p> <p>第5回 筋肉の構造と収縮</p> <p>第6回 骨の構造と機能 骨代謝</p> <p>第7回 消化器系：食物の消化と調節機構</p> <p>第8回 呼吸器系：肺・気管の構造とガス交換</p>						<p>全て 森</p>	
評価方法 評価基準	<p>成績は以下の評点配分によって総合的に判断する。</p> <p>80% 学期末試験      20% 小テストおよび提出課題</p>							
教科書	シンプル生理学（南江堂）			参考書等	なし			
学生へのメッセージ	<p>生理学はすべての医学系科目の基礎となる学問です。暗記にたよらず、生体機能を理解しましょう。そのためには、授業を受けたその日のうちに復習することです。</p>							